R. S. C. D. S.

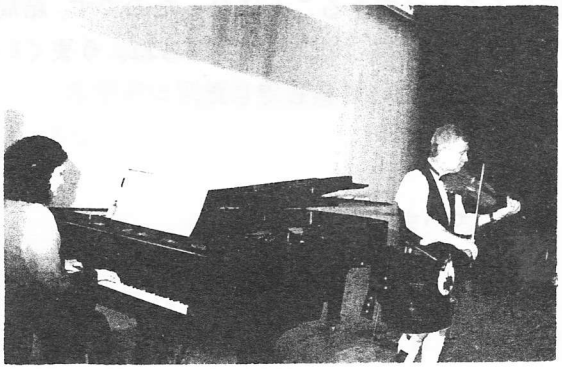
東京ブランチレター

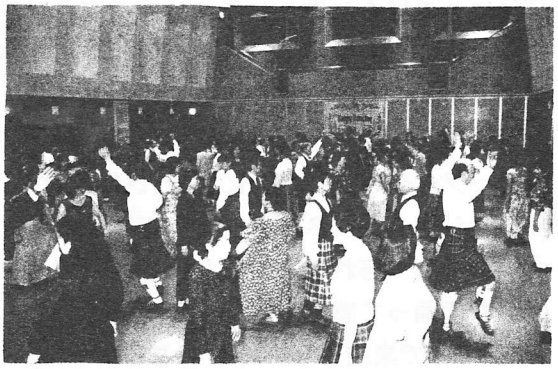
NO. 46

1999年 12月21日発行

東京ブランチが１５周年を迎えました

東京ブランチは創立１５周年を記念して11月7日(日)に牛込箪笥区民ホールにおいてパーティを開きました。160人ほど集まり大盛会でした。桜井香枝さんのご尽力でアメリカからviolinistのMr. Calum MacKinnonとpianistのMs. Lisa Scottをお呼びして、ピアノと器楽の二つのコースに別れての２日にわたるミュージッククラスも開かれました。これは初めての試みでしたが、非常に実りのあるものとなりました。パーティではそこで練習した人たちの演奏で３曲踊り大変に盛り上がりました。また残りの全曲をlisaとCalumのお二人が演奏してくださり、ふだん録音した音楽で踊ることの多い私たちにとっていつも以上に気分の高揚する本当に楽しいパーティとなりました。また桜井香枝、川崎千佳さん姉妹による素晴らしいステップダンスのデモンストレイションもパーティに花をそえて下さいました。その後アメリカからお礼状が届きました。そのほんの一部をご紹介します。Calumからは "My trip to Japan exceeded my expectations. I enjoyed playing for such excellent and enthusiastic dancers and I was very impressed with the levels of the students in my music class." またLisaからも "My time in Japan was absolutely marvelous! ...."というように日本滞在をとても喜こんでいらっしゃいました。





［裏話］

櫻井 香枝

私がカラムと出会ったのは、1997年の9月、ワシントンDC郊外で行われたダンスキャンプの時です。カラムはミュージッククラスのティーチャーで、私もそのクラスに参加していました。クラスの後、何気なく「日本に来たことある？」と聞くと、「ビジネスで何度も行ってるよ。今年も行く予定だよ。」との返事。「じゃあ日本に来たら、その週末にミュージック教えてくれる？」「オーケー。」…そんなこんなで、その年の11月カラムは本当に来日し、東中野スコティッシュダンスの会の合宿、特別音楽クラスで教えて下さったのでした。
今回の15周年のイベントには、彼の音楽クラスに参加していた方からの推薦があって、私が声をかけることになりました。メールをいれたら、翌日に「是非日本で演奏をしたいです。」と返事を頂いて、話はとんとんと進み、気がつけば、ブランチとカラム＆リサの橋渡し役になっていたのでした。イベントのためにやりとりしたメールは8ヶ月にわたって165通にのぼりました。（ちょっとは努力を認めてね！）
とにかく色々ありました。裏話聞きたいですか？ 一つお話しましょうか。
ミュージッククラスの前日は、千葉でコンサート＆パーティーがあったのですが、その時にクラスはピアノとその他の楽器のグループに分けるので、部屋が2つ、通訳が2人必要ということが判明したのです。すぐに問い合わせたけれど、もちろん前日では全ての部屋は予約済。カラムは「じゃあさー、椅子借りて外でやろうよ。帽子置いといたら、お金いれてくれる人いるかもよー。」などと呑気なこと言っているけど、遠方はるばる来て下さる参加者の皆さんにどう言い訳したらいいのでしょうか。本当に困ってしまいました。一つの部屋で２つのグループはできないかとか、一つの部屋を交代で使うとか、姉のアパートを開放してもらおうかとか、頭をぐるぐるさせながら当日会場に向かいました。会場には既にカラムとリサは到着していて、キーボードが運ばれ刻々と時間は迫ります。最後にもう一度空いている部屋はないか何かないか、本日の利用グループの掲示板を確認すると一つだけ空白があるではありませんか。聞いてみると、そこは編集調整室、いわゆる録音、編集ができる部屋で、視聴覚スタジオとセットでないと貸せないということ。けれどクラスで予約していたのが、その視聴覚スタジオだったので、その部屋を借りることができることになったのです。結局全てセッティングができたのは、クラス開始30分前でした。カラムは「ほらね、うまくいったでしょ！」とにやにや。私は神様ありがとう、万歳！って感じでした。

最後にこの場をお借りしてメッセージを送ります。
松橋さん、たいへんなお役目を頂いてありがとうございました。
吉沢さん、ドキドキはらはらしましたね。
稲垣さん、音響ではお世話になりました。
スタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした。
ミュージッククラスに参加して下さった皆さん、カラムからの伝言です。「練習を続けて下さい。そして忘れないでほしいのは、……テンポ、テンポ、テンポ！」
生演奏で踊って感動されたダンサーの皆さん、カラムから帰国後すぐにメールをもらいました。「日本で素晴らしい時を過ごしました。いつかまたご招待して頂けることを期待しています。」

ミュージシャン　デビュー

川　崎　千　佳

ダンスパーティー開始の２時間前、バンドメンバーは最終音合わせをしていた。舞台にはグランドピアノ１台他、電子ピアノが設置してある。当初の予定ではリサがグランドピアノを、私が電子ピアノを弾くはずだった。ところが「電子ピアノの音がどうしても他の楽器と合わないわ。千佳が一人でグランドピアノを弾いたらどうかしら。」というリサの一言で、何と私が一人でピアノを弾くことに決定してしまったのである。うっそー！！
その瞬間から本番直前までの私は、指先が冷たくなるほどに緊張していた。ダンサーとしては幾度となくコンペや舞台を経験し、出番前の緊張感でさえ楽しむ余裕のある私であるが、ミュージシャンとしてはほぼ初舞台、しかも１５０人ものダンサーのために弾くのだから一大事である。

そしてついに本番。ピアノの前で落ち着かない私にカラムが歩み寄ってきて「とにかく僕のフィドルの音を聴いてついてくれば大丈夫！」と声をかけてくれる。勇気がわいてきた。一曲目のコードを「ジャーン」と弾いたあとは、もう無我夢中。ミスしても前進あるのみ、ダンスは途中で止まれない。気づけば一曲目は終了し、拍手の波とアンコールの声に会場いっぱいの笑顔。ほっとする間もなくアンコールに応え、さらに２曲目、３曲目へと演奏を続けた。こうして私の　”ミュージシャン　デビュー”が果たされたわけだが、演奏後は、なんとか無事弾き通すことができた安堵感と、もっと練習時間があればもう少しましな演奏ができたのではないかという悔しい気持ちとが入り混じって何となく複雑な心境であった。

さて、話は前後するが、パーティー前日に行なわれたミュージックワークショップのピアノクラスで、リサが教えてくれたことをここでまとめてみようと思う。ピアノは、他の楽器と一緒に伴奏として弾く場合と、ソロで弾く場合とでは演奏方法がまったく異なる。伴奏するときは和音のみでリズムを刻むのに対し、ソロでは右手でメロディーを左手で和音を弾くからである。今回は、ソロの弾き方、特にダンスクラスでの弾き方に焦点をあててクラスが進んでいった。

⑴大きな音で弾く。そのためには左手で和音の主になる音（Ｃならド、Ａならラ etc）をオクターブで弾く。

⑵左手の弾き方にバリエーションをつける。リズムの刻み方を工夫することが必要となる。

⑶ダンサーはピアノの演奏のとおりに踊るので、リズム、テンポがとても大事。例えばストラスペイでは、１泊目を強調して弾くことが重要。（ダンサーの皆さん、言っている意味おわかりでしょう？）

⑷始めと終わりのコードの弾き方、ダンスティーチャーの「レディー、アン」の声でスムーズに弾き始められるように練習すること。

細かいことはまだまだあるが、リサが教えてくれたことはとても勉強になったし、ダンサーやティーチャーが音楽を理解することはとても大事だと思うので、ご参考まで。

ワークショップは終了したが、私の音楽への挑戦はまだまだこれからである。

ミュージック・クラスに出席して

菊池　孝

今回の音楽クラスに出席するに当って思い出したことは、以前のブランチの音楽クラスのときに曲の選定の仕事が私に回ってきて、どのようなAlternative Tuneを組み合わせるかで大変な苦労をしたことです。楽譜は勿論、知識・経験共に不足していたので、当然の成り行きでした。今度は事前に楽譜を送って戴いたうえ、曲も割合馴染のあるものが多かったので一先ず安心といったところでした。

初日のクラスの会場の墨田区生涯学習センターは音楽練習の設備・機材がととのっていて全く申し分なし。人数の関係ということで、ピアノとそれ以外の楽器の演奏グループに分かれ、それぞれリサ・シャープさんとカラム・マキノンさんから指導を受けるということになりました。全員一緒ではやりにくかったでしょう。

後者のグループでは、ヴァイオリン、リコーダー、フルート、アコーディオンなどのメロディー担当が全員で記念パーティーで演奏するということで、演奏予定の三つのダンスの曲を材料として講習が進められました。マキノンさんのヴァイオリンにならって、それぞれの楽器で同じ単旋律を弾いたり吹いたりするのですが、曲の要所要所で細かい指示があり、なるほどとうなずけることが多々ありました。ときどきマキノン氏の即興的な演奏が入り、リコーダーやアコーディオンの低音が加わったりして、ピアノが鳴っていなくとも結構それらしい形になったようです。クラスといっても仲間同志で気軽に合奏を楽しむといったような気分でした。ヴァイオリンの奏法以外にマキノンさんから教わったことで印象に残ったことを幾つか並べてみると、

・ＳＣＤの音楽の演奏で重要なのは一にTempo、二にTempo、三にTempoである。
・Alternative Tuneを選ぶときにはKeyを変えるのが良い。
・付点音符は楽譜通りに演奏しなくても良い。
・トラディショナルな曲の弾き方は自由で良い。

などで他にも大事なことがあった筈ですが、私は正直なところ、マキノンさんの演奏に目を奪われて、どうやら話の方は上の空だったようです。Tempoのことはさておき、演奏のスタイルに相当に自由度があるということはなかなか面白いと思った次第。私のような楽譜通り演奏できない素人には格好の言い訳としても使えそうです。

ヴァイオリンの奏法に関しては幾つか気がついたことがありました。喜んでここに書いてみたいところなのですが、考えてみるとあまりにも初等的なことばかりなので、笑われないように取止めることにします。とにかく、私自身はヴァイオリンの奏法に関してはかなりの収穫がありましたが、ヴァイオリン以外の楽器の人達にとっては少し物足りなかったかも知れません。続きの二日目の音楽クラス、そして記念パーティーにも触れたいのですが、書き始めるとこの紙面ではとても足りないので、中途半端のままで見送ります。

今回一番感銘を受けたことは、カラム・マキノンさん、リサ・シャープさんのお二人とも本来の仕事の他に、趣味の分野でも見事な腕前を持っておられるということです。まだまだわれわれの及ぶ所ではないと感じ入りました。

"１５周年記念パーティに参加して"

小山 貞江

1999年11月7日 東京ブランチの15周年パーティに参加させていただきました。広いフロアーはキルトをつけた紳士たちや、おもいおもいのドレスの淑女たちがあちらこちらで談笑したり、再開を喜びあったり、華やかなにぎわいでした。そしていよいよパーティの始まりです。ＭＣのテキパキした進行、生演奏のやわらかな音色、ステップも軽やかに次々と踊られていく中、"The Glasgow Highlanders"となり全員そろっての前進は"わくわく"でした。式典、デモンストレーションと続きラストダンスは"The Eightsome Reel"。みんなそろって輪になり左へ右へ、笑顔が、笑い声がとびかい、初冬の一日を満足感一杯で過ごさせていただきました。

"東京ブランチ創立１５周年記念パーティに参加できて"

佐野 美知

前日は息子の宿に泊り、朝息子に会場の牛込箪笥区民ホール入り口迄送り届けてもらいました。（情けないが一人では動けないのです） 受付をすませて顔なじみの方を見つけてホットしました。松橋先生の挨拶や報告事項に続きミュージシャンのMr.Calumさん、Ms.Lisaさんの紹介の後早速踊り始めることに･･･。

いつもの事ですが、最初のコールを待つ時の緊張感はなんとも言えません。Red Houseに始まり、途中時間調整でカットもありましたが、その分アンコールもあったりで２０余曲を、なんと！全部のセットに入れたのです。そのうえそれぞれ違う方に踊って頂くことが出来たのです。勿論このような事は私にとっては初めてです。私は今回のパーティ参加にあたり、密かに自分に言い聞かせました。どの曲も『一度は踊ったことがある』また資料は『全部揃えた』だから沢山の方と踊っていただくために、勇気を出して声をかけることが出来るようになる･･･。思いはほぼ達成できましたが、途中何度か動きを間違えてご迷惑をおかけした方々にはこの場を借りて「ゴメンナサイ」そして有り難うございました。それから何よりも嬉しかった事は、全曲を生演奏で踊るぜい沢を味わうことが出来たことです。沢山の曲を休まず演奏してくださったCalumさんとLisaさん、そしてミュージッククラスの皆さんの演奏も様々な楽器と音を楽しませていただきました。また、デモのステップダンスでは最前列の真中に座りこみ、素晴らしいステップにただただ見入るばかりでした。数々の楽しさと、記念パーティに参加できたぜい沢さと、ちょっぴり反省の気持ちを織りまぜて、帰りの新幹線の中ではサークルのメンバーたちと話に花が咲きました。

☆ 合宿(2000年3月19(日)～20(月,祝)のお知らせ
裏表紙を参照して、振込み用紙でお申し込みください。

☆ Full Certificateとpreliminaryの試験について
Examination Committeeが発足し、委員は荒井千文、五十嵐成子、大野悦子、近藤幸子、佐藤仁美、松橋順子、吉沢敦子の各氏。
Training Class(Training TeacherはMiss Lesley MartinとMrs. Elma McCausland)は、4月下旬から5月上旬の約2週間。試験は5月上旬
ミニ・トレイニング・クラス(プレリム課題曲の踊り合わせ)が12月5日(日) 千代田区立総合体育館にて実施され、23名参加。次回は2月6日(日)(2月5日は間違い)

☆ Book 40の講習会が行われました。
9月23日(祝) 赤羽台東小学校体育館でBook 40の講習会が今年のサマースクールに参加したティーチャー5人(田村妙子、鳥山豊喜、荒井千文、林浩子、五十嵐成子)により行われ、80人ほどが参加しました。その中に"FORTH BRIDGE JIG"というダンスがありますが、エディンバラにあるそのフォース ブリッジにかんしての興味のあるエピソードをクレメント・篤子さんに寄稿していただきました。

Forth Bridge

今年出版された Book40 の中に、「Forth Bridge(フォース橋)」という題名の踊りがある。Firth of Forth(フォース湾)に架かっている橋だからこう呼ばれるが、正確には「Forth Railway Bridge(鉄道用)」と「Forth Road Bridge(車道人道用)」があり、踊りの題名になっているのは鉄道用のフォース・ブリッジで、その百年祭を記念して作られた踊りである。

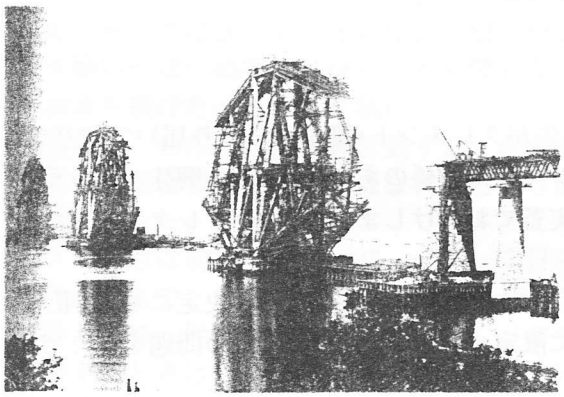
よく絵葉書やカレンダーのモチーフとして使われる Forth Bridge は、Forth Bridge Red と呼ばれる独特の赤い色をした、ネッシーの背中の三つのコブを思わせる独特の形をしている。だから、踊りの最初の八小節では、横の人とつないだ手を挙げて、橋の形状を表している。エッフェル塔と言えばパリ、タージマハールと言えばインド、フォース・ブリッジと言えばエディンバラ・・・というランドマークになっている。実は、百年以上前に完成したこの橋のデザインに日本人が関与している。

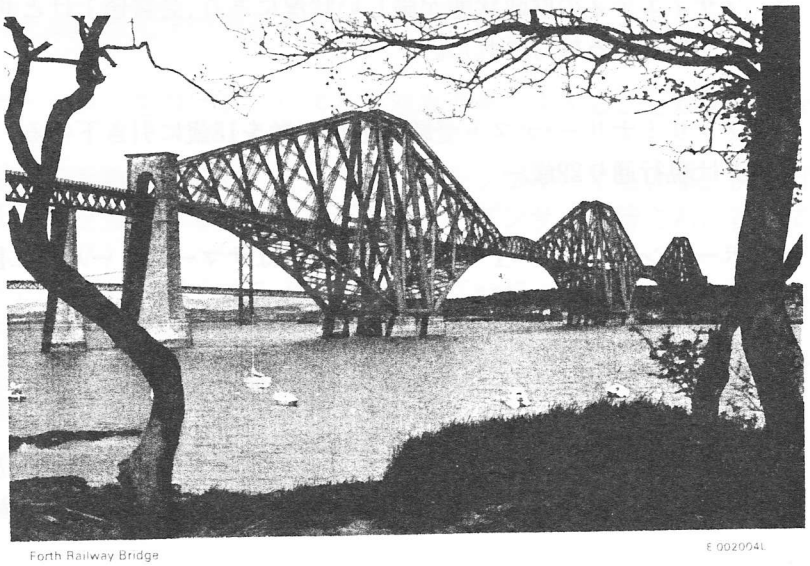
1873年、Forth Bridge Railway Company が設立され、巨大な橋の建設が始まった。 橋下を船が航行するため、46m の高さを空けなければならない。しかも湾が狭くなっているとはいっても、約2.5km の距離に重い列車を渡らせるのだから大事業である。この前1870年に、Tay Railway Bridge 建設案が議会で承認されていた。 そこで Forth Bridge も Tay Bridge 同様に吊り橋で建設計画が進められた。ところが、1878年に完成した Tay Bridge が、1879年12月28日の夜、列車が嵐の中を走行中、橋の一部が崩れて75名の死者を出すという大惨事に見舞われたため、Forth Bridge の建設計画主任 Thomas Bouch が解雇され、一般に建設案が公募された。これに応募したのが、当時日本鉄道省から派遣され、グラスゴー大学で勉強していた渡辺嘉一である。彼はカンティリーバースタイル（片持梁式－日本ではゲルバートラスト橋と呼ばれる）というデザインを提唱してこれが取り入れられ、橋建設のアドバイザーとなっている。

1883年に着工されたフォース・ブリッジは、55,000トンのスチール、18,122m³ のアバディーンの花崗岩と1,755m³の石、800万個のリベットを使って 7年を掛け、57人の命を犠牲にして、1890年3月4日プリンス・オブ・ウエールズ（後のエドワード7世)によって開通が宣言された。その技術を世界に誇る全長2,528.38mのフォース・ブリッジは、ロンドン、エディンバラ、ダンディ、アバディーンを結ぶ重要なリンクになっている。

ちなみにこの橋の袂に桟橋が見られる。11世紀にマクベスを倒してスコットランドを統一したマルコム3世の妃クィーン・マーガレットが、エディンバラ城からダンファームリン僧院までよく巡礼の旅をしていた。クィーンがフォース湾をフェリーで渡ったので、橋の南側の町をサウス・クィーンズフェリー、北側をノース・クィーンズフェリー、そしてエディンバラからサウス・クィーンズフェリーの町までの道路をクィーンズフェリー・ロードと呼ぶ。この桟橋からは、1964年に車道人道用の吊り橋(その当時ヨーロッパで最長)が完成するまで、11世紀から800年近くの間フェリーが行き来していた。

クレメント篤子（Nov 1999記）





Forth Railway Bridge

E 002004L

☆ ブランチ・クラスのお知らせ

レギュラー・クラス

1月8日(土) 6:00〜9:00p.m.

神田さくら館・地下体育館

ビギナーズ・クラス

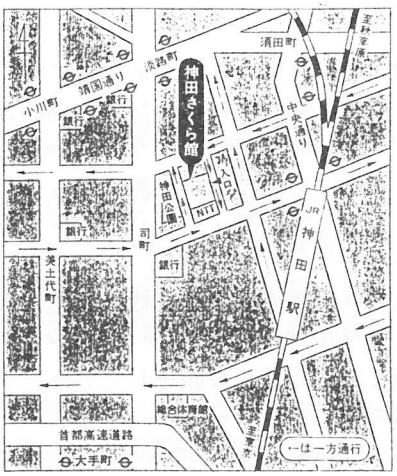
1月8日(土) 1:00〜5:00p.m.

神田さくら館・地下体育館

1月23日(土) 1:00〜5:00p.m.

新橋・港区生涯学習センター

＊ お問い合わせはセクレタリまで。
会場には問い合わせしないで下さい。



<交通のご案内>

☆JR線　神田駅北口または西口より徒歩約5分
☆地下鉄丸の内線　淡路町駅A2番出口より徒歩約5分
☆地下鉄銀座線　神田駅4番出口より徒歩約5分
☆地下鉄新宿線　小川町駅A2番出口より徒歩約5分

☆ ショップのお知らせ

別紙を参照してお申し込み下さい。

渡辺悦子 350-0222 坂戸市清水町18-11

Tel: 0492-81-6427

☆ RSCDS本部からのお知らせ

ソサィエティの年次総会、各種委員会の報告がクレメント・篤子さんより届いておりますが、紙面の都合により東京ブランチ・メンバーに関係のありそうな事、興味のありそうな事のみを抜粋します。詳しいものは実費でおわけしますので、セクレタリまで。

＊ 日本のブランチ・エリア問題に関し、ソサィエティの規約に従うという決定に対し、東海ブランチから、東京は広いから1ブランチに限定するのはおかしい、この問題をG.P.で再検討するようにとの要求があり認められた。

＊ ソサィエティの財政状態が厳しい状況にあり、会費値上げと共に、今後の運営方針についていろいろ検討された。

＊ プレリミナリー・テスト受験の最低年齢を18歳に引き下げる。但しフルサーティフィケトは現行通り22歳。

＊ ポーテンシャル・チューターズ・コースはサマースクール中に開催。チューターズ・コースは2000年3月25-26日

＊ Maxwell's Rantの25-26小節は、一般に"nearer hands"で踊られる。

＊ 今年でソサィエティ・ブックの全音楽の収録が終了したので、次の目標は全音楽をCDで発売したい。これにはお金がかかるのでブランチ、グループ、個人からの寄付を募る。

＊ 2000年のイグザム・ツアーはオーストラリア(3月18日-4月16日)と日本(5月3日-14日)

＊ 来年のサマースクールは2000年7月24日～8月20日の予定。ブリティシュ・オープン・ゴルフのため一日遅れて始まる。
ミュージック・コースは2週目(7月30日～8月6日)に開かれ、ソサィエティの会員でなくても参加可能。
(申し込み用紙は1月末に届きます。必要な方はセクレタリまで。受付締め切り3月1日)

＊ アフィリエィテッド・グループの承認: ハッピーＳＣＤクラブ(東京)、大和ＳＣＤクラブ、金沢ＳＣＤクラブ、ウェィヴァリー(北九州)を含む13グループが承認された。

＊ 2000年のダンス・コア・プログラム: 75周年記念でコア・プログラムが世界各地で踊られ好評だったのに引き続き、2000年も各10年毎の代表的な踊り８曲を選定した。各ブランチやグループで取り入れて欲しい。

1920年代	Scottish Reform	J	Book 3
1930年代	Cadgers in the Canongate	R	9
1940年代	The De'il amang the Tailors	R	14
1950年代	The Birks of Invermay	S	15
1960年代	The Starry Eyed Lassie	J	23
1970年代	Staffin Harvest	S	4 for'78
1980年代	John of Bon Accord	R	33
1990年代	Gang the Same Gate	S	36

＊ ヴィデオに関するアンケート: ヴィデオに興味をもっている人や通常購入している人からの広い意見を委員会に寄せてください。同封のアンケート用紙で1月末日までに、セクレタリまで、FAXまたは郵便でおくってください。

＊ ミレニアム・アイテムとしてT-シャツ、ブローチなどが販売される。
(希望者は別紙を参照して、通常のショップの用紙の余白を利用して申し込んでください。)

グループ告知板

葛飾スコティシュ・カントリー・ダンスクラブ創立14周年パーティ

日時 : 2000年 3月26日(日)　12:30～16:00

会場 : 葛飾区総合スポーツセンター『エイト ホール』
京成線青砥駅、立石駅より徒歩15分

会費 : 1000円

連絡先 : 尾身信晴 (03-3697-5838)　　島尻哲三 (03-3608-6408)

１９９９年度合宿のお知らせ

すでにブランチ・レター45号でお知らせしましたように、今年度のブランチ合宿はイギリスからティーチャーでもありハイランドダンスの名人でもある Derek Haynes氏と夫人のやはりティーチャーの Maureen をお招きして、下記のように実施することに致しました。クラスは２クラスとし、特にランクを設けず、お二人に交替で教えて頂きます。めったにない機会ですのでぜひご参加下さい。

記

日　時　　２０００年３月１９日（日）　午後１：３０から
　　３月２０日（月･祝）　午後３：００まで（予定）

場　所　　石川島研修センター　（神奈川県綾瀬市小園７２０）

参加費　　１３，０００円　（非会員 +1，０００円）

人　数　　１００名（先着順）

申込み締切　　平成１２年１月２０日（金）　振込票期日で可

申込み方法　　郵便振替にて
　　口座番号　００１６０－９－６４０２３
　　加入者名　ＲＳＣＤＳ東京ブランチ

＊1　１枚の振替用紙で１名が申し込んで下さい。
＊2　払い込んだ参加費は原則として返却いたしません。

お問い合わせはセクレタリまで

RSCDS 東京ブランチレター No.46 1999.12.21 発行
編集責任者　林　浩子
〒188-0014　田無市芝久保町 3-23-19
TEL&FAX.(0424)61- 7386

発　行　ＲＳＣＤＳ東京ブランチ
〒300-0841 土浦市中 1319-11
吉沢　敦子
TEL&FAX 0298-41-0767